文教大学

BunkyoUniversity

文教大学

越谷キャンパスで学べる外国語

越谷キャンパスで学べる外国語科目

英語

大学の授業を活用して英語の力を伸ばそう!

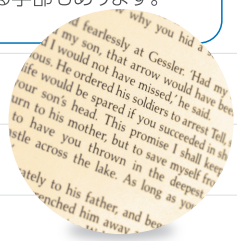
英語の特徴・英語がなぜ必要とされるのか

いま、英語は世界でどのように使用されているのでしょうか。世界で、英語を母語としている人の数は、4億人弱で、中国語（北京語）の約9億人と比較すると規模が小さいのですが、英語を第二言語として用いる人、さらに外国語として英語を学習し使用する人の数を合計すると16億人以上に上ると推計されています。観光や経済活動、国際会議や航空・通信業務における使用言語として、また学術論文等を発表する際に用いる言語として、そして、さまざまなコミュニケーションを行う局面において、英語が使用されます。例えば、互いの言語を知らない人同士がコミュニケーションを行うとき、誰の母語でもない英語を共通語として用いることによって、意思疎通が可能になります。

このように、英語を習得することにより、新しい情報を得たり、自分の考えを広く発信したり、母語の枠を超えてコミュニケーションを行ったりする可能性が広がります。

学びのステップ

「英語Ⅰ」から「トピックで学ぶ英語A〜D」まで、「コミュニケーションのための英語」をキーワードとし、英語で情報を読み取ったり聞き取ったりする力を伸ばすとともに、英語で自らの考え・思いを表現し、発信する力を段階的に身に付けていきます。学部によって、カリキュラム上の位置づけが異なり、トピックや目的別に設定されたクラスから、履修したいクラスを選ぶ制度を導入している学部もあります。



上達したい人へのアドバイス

「中学・高校と6年間英語を学んできたのに、英語が自由に使えるようにならない!」というもどかしさを感じている人も多いかもしれません。第二言語である英語の習得は、母語の習得のようにはすんなりいきません。これは、日本語と英語とで言語の特徴が大きく異なること、日本で通常の生活をしていく上では、英語を使用せずとも大抵の用が済んでしまうという状況が続いてきていることに大きく関係しています。

それでも、大学の授業を活用することで、高校までに学習した語彙や文法知識を基盤に、新聞・TV・インターネットなどのメディアにおいて英語で発信された情報を幅広くキャッチする力や、英語で表現された文献や作品をじっくり味わい日本語で構築された世界とは異なる価値観や文化を学び、物ごとを複眼的に捉える力、自分の考えや思いを英語で相手に伝えて、議論する力を少しずつ伸ばしていくことができます。週2回の英語の授業をペースメーカーにし、担当教員にアドバイスをもらいながら、日々の学習の中に、英語と触れる時間をつくっていくことです。越谷キャンパスでは、図書館の英語読本やCALL教室、多言語交流室、生涯学習センターの英会話講座など、英語学習に活用できる施設・プログラムがあります。大学で継続して英語力を伸ばし、自分のコミュニケーションの幅・将来の可能性を広げていきましょう。

資格・留学

実用英語技能検定試験（英検）・TOEIC・TOEFL

留学提携校：アメリカ合衆国、ニュージーランドなどの大学と協定を結んでいます。（文学部には検定試験結果に基づく単位認定制度や協定校留学制度があります）

越谷キャンパスで学べる外国語科目

ドイツ語

ドイツ語を学んでヨーロッパに行こう！

ドイツ語の特徴・魅力

「ドイツ」の正式名称は「ドイツ連邦共和国」です。ドイツは16州から成り立っており、首都はベルリンです。ドイツ語が話されているのは、ドイツだけではありません。オーストリア、スイス、リヒテンシュタイン、ルクセンブルク、ベルギー、イタリアの南チロル地方、フランスのアルザス地方などでも話されています。中東欧諸国でもドイツ語の母語話者がいます。ドイツ語はEUの中で最も母語話者の多い言語なので、ドイツ語を勉強することで、ヨーロッパを知る突破口が開けることは間違いありません。

ドイツと日本の交流の歴史も長く、2011年には日独交流150周年を迎えました。日常生活の様々な場面で、日独交流にゆかりのあるものを見つけることができます。たとえば、日本では年末におなじみとなったベートーベンの第九ですが、日本に捕虜としてつれてこられたドイツ兵が演奏したことがはじまりとされています。バウムクーヘンも、ドイツ人捕虜だったユーハイムが日本でお店を持ったことから普及していきました。ドイツ語を勉強しながら、こうした発見を楽しみましょう。

学びのステップ

原則として授業は週2回（文法・読解）開講されます。1年目は、「ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語Ⅱ」を履修します。文法の授業では、文法項目を徹底的に学び、基礎力をつけます。読解の授業では文法をおさえつつ、様々なテキストを講読します。「ドイツ語」という言語だけでなく、その背景にある文化や歴史も学びます。さらに、「ドイツ語Ⅲ」「ドイツ語Ⅳ」等のほか、「トピックで学ぶドイツ語」や「ドイツ語で学ぶドイツ語」という授業もあります。担当教員の個性を活かしつつ、1年目で培った基礎力をさらに伸ばすための授業が行われます。履修者の関心にそった教材を用いて、実力をつけていきます。

上達したい人へのアドバイス

上達するには、学習を「やめない」ことが大切です。授業以外にも、テレビやラジオの講座を視聴する、ドイツ語圏地域の情報をネットで調べてみる、など、様々なアプローチがあります。越谷キャンパスでは、デュッセルドルフ大学からの留学生も勉強しているので、積極的に交流することもおすすめします。勉強のなかに楽しみをみつけて、少しずつでもいいので、継続して取り組みましょう。どの語学もそうですが、はじめてそのことばに触れたときの新鮮な気持ちを忘れず、「今、何のために学んでいるのか」を常に意識して取り組みましょう。

こんなアプローチもあります

夏と冬に行われる「ドイツ語技能検定試験」に向けて勉強してみてはいかがでしょうか。単位認定の制度もあります。ドイツの言語や文化の普及機関であるゲーテ・インスティトゥートで実施されているドイツ語講座や検定試験もあります。オンラインで学ぶ機会もあります。また、協定校であるデュッセルドルフ大学への留学機会もあります。これらに関心のある人は、ぜひ教員に話をしてみてください。

資格・試験

ドイツ語技能検定試験 （文学部には検定試験結果に基づく単位認定制度や協定校留学制度があります）

越谷キャンパスで学べる外国語科目

フランス語

フランス語に挑戦しよう！

フランス文化の豊かさ

フランス語を話す人は世界で第11、12番目と聞くと、みなさん、驚くでしょう。なのに日常何気なく使っているフランス語の多さは、どういうことでしょうか？レストラン、オードブル、フィアンセ、コンクール、グランプリなどなど。これらはフランス文化の豊かさを示す例に他なりません。

フランス語は、英語、ドイツ語などゲルマン系の言語と違っていて、イタリア語、スペイン語などロマンス語系に属しています。そして、このロマンス語系の言葉を話す人々の数は、地球上でほぼ6人に1人の割合と言われています。

フランスという国は、国土の形から"ヘキサゴン"があだ名。面積は日本の1.5倍で、人口は半分。海外県、海外領土があって、実は地球上に広々と広がっています。1年おきに開かれるフランス語圏会議でも、参加国は約50にのぼります。法定バカンスが年間5週間もある国、しょっちゅうストライキをやっている国、世界で観光客が一番たくさん押しかける国…。

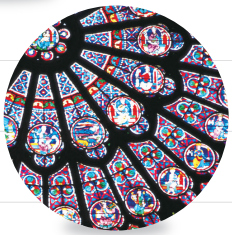
上達を目指す人は…

本学では今のところ協定校などをフランスに持っていませんが、現地で生きた語学研修をする機会はいろいろありますので、相談に来てください。それでは、教室でBonjour（ボンジュール）！皆さん同士は駅やキャンパスでSalut（サリュ）！（ちなみに【フランス文化の豊かさ】で取り上げた言葉のフランス語の綴りはrestaurant、hors-d'œvre、fiancé、concour、grand prixです。）

意外に分かりやすいフランス語（学びのステップ）

A.B.C....はアー、ベー、セー...JapanはJapon、EU（ヨーロッパ連合）はUEとまさに逆。ひと頃よく登場したWHOは何とOMS。皆さんの前にこんな新しい言葉の世界が待ち受けています。また愛子Aikoさん、栄子Eikoさんは、フランス語で読めば同じエコさん、大石Oisiさんは何とオワジさん。英語の読み方が頭に刻みついた人には、最初は難しく思えるかも知れませんが、いったん規則を覚えてしまうと、どんな初めての単語もまず読めてしまう、意外にわかりやすい面があります。

授業では、1年間で文法の基本と、基本的な文章、そして日常表現の基礎を学びます。またビデオなどを通じて、フランスの実際の生活についても知識を得ます。



資格・試験

実用フランス語技能検定試験 （文学部には検定試験結果に基づく単位認定制度があります）

越谷キャンパスで学べる外国語科目

中国語

中国語から世界を眺めてみよう！

中国語の特徴とその魅力

中国語は、中国、台湾、シンガポールを中心に約13億人という、世界最大の母語話者人口を持つ言語であり、国連の公用語の一つです。また、最近、中国の経済力が増すにつれて、有用な言語の一つになっています。最近では、日本に来る外国人の約45%が、中国語を母語とする人たちであり、英語以外では実際に耳にする機会が最も多い言語でもあります。

現在学ぶ中国語は中国の標準語である「普通話」ですが、その文字は、日本人も長年使ってきた漢字を簡略化した「簡体字」を用います。日本で現在使っている漢字の字体とは少し違いますが、他の言語と異なり、初めから学ぶ必要がないので日本人にとっては覚えやすいです。発音は、「ピンイン」と呼ばれる表音ローマ字を用います。中国語は、漢字一字に対して一音節で、全て声調という高低アクセントがついています。学び初めに練習が必要ですが、段々とできるようになります。発音自体も母音も数が少なく、それほど複雑ではありません。

語彙も日本語と共通のものも多く、文法も比較的単純です。例えば、「ぼくは彼女を愛している」は“我爱她。”、「彼女はぼくを愛している」は、“她爱我。”となります。英語の“I love her.”や“She loves me.”と比べると中国語には人称、数、時制による語形変化がないことに気付くでしょう。

ことばはそれを話す人々の文化を反映します。例えば、英語では兄も弟も“brother”で表すことや、中国語では祖母を父方か母方かで“奶奶”、“姥姥”と呼び分けることは、日本人には奇妙に感じますが、それはそれぞれの言葉を話す人々の考え方、ものの見方を映しています。日本語では「私、俺、僕、…」など様々な一人称を用いますが、中国語は“我”のみなのも同様です。人は言葉によって世界を切り取り、眺めます。異なる言葉を学ぶということは、異なるものの見方を身につけることです。日本にとって中国は歴史的にも地理的にも縁の深い国ですが、日本語を母語とする我々と中国語を母語とする彼らとでは同じ世界が異なる見え方をしているに違いありません。古くて新しい隣人の言葉を学ぶことは、中国の今と昔を理解することにつながるだけでなく、我々自身を見つめるきっかけにもなるはずです。日本語とも英語ともタイプの異なる中国語を通じて世界を眺めてみませんか。

学びのステップ

最初は発音の練習が重要です。中国語Ⅰでは前半特に発音の習得に力を入れ、併せて発音記号である「ピンイン」の習得を行います。それから基本構文を覚えて、中国語の仕組みの基礎を学びます。また中国の現在と過去も映像等で学びます。中国語Ⅱでは発音と基本的仕組みの仕上げをします。中国語Ⅲ、Ⅳでは中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎をもとに、まとまった文を読んだり、会話の練習をします。トピックで学ぶ中国語A～C・中国語で学ぶ中国語Ⅰ～Ⅲではネイティブの先生を中心に、読解力やコミュニケーション能力を高めます。

上達したい人へのアドバイス

特に復習に力を入れること、併せて多言語交流室でネイティブの先生とコミュニケーション能力を磨くことを勧めます。

資格・留学

中国語の検定には、主に中国語検定とHSK（漢語水平考試）がありますが、前者は日本で始められた検定で認知度が高く、後者は留学に特化したもの。留学には協定校中国二校の派遣留学があります。（文学部には検定試験結果に基づく単位認定制度や協定校留学制度があります）

越谷キャンパスで学べる外国語科目

コリア語 Korean

隣国のことばを楽しく学ぼう！

コリア語の特徴と魅力

コリア語は、韓国語や朝鮮語という名称でも呼ばれ、大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国を中心に、中国・日本・アメリカ・旧ソ連地域などに、約7500万人の話者がいます。

日本語と比較すると、発音や文字の面でいくつかの違いがある一方で、文法の面で多くの共通点があります。発音の面では、母音・子音ともに日本語よりも多くの音を用い、音節の終わりに子音が来る閉音節があるという特徴があります。文字は、15世紀につくられたハングルという文字が用いられています。一見難しいように感じられるハングルですが、ローマ字と同じく子音をあらわす記号と母音をあらわす記号が、とても合理的に組み合わされてできており、その仕組みさえ理解すればすぐに覚えることができます。

文法の面では、コリア語は日本語と同じ「主語＋目的語＋動詞」の語順をもち、日本語と同様、助詞や助動詞が大きな役割を果たします。文構造が類似していることから、日本語話者にとって、コリア語はとても習得しやすい言語といわれています。

文化交流の面では、2002年のサッカー日韓ワールドカップの開催以降、日本にもハングル表記の標識が増え、韓国での日本ブームが起こり、人の行き来もますます盛んになっています。また、韓国ドラマ「冬のソナタ」(2002)がNHKで放映されたのがきっかけで、韓国ドラマの人気が爆発。K-POPの人気とあわせて日本にも韓流ブームが起こりました。その人気がさらにグローバル化し、世界各地でコリア語を学ぶ人たちが増えています。

上達のためのアドバイス

大学では、週2回の授業で、発音の基礎から日常生活で用いる基本表現を徐々に練習し、習得していきます。韓国映画やドラマ、K-POPを利用した学習も可能です。また、本学では駐日大韓民国大使館の韓国文化院が主催する「全国学生韓国語スピーチコンテスト」への出場を推奨しています。1年目から出場が可能で、希望者には後期にトレーニングを行っています。これまで多くの学生たちが本選に出場し、毎年、優秀な成績を収めています。

資格・留学

・韓国語能力試験(韓国政府認定)
・ハングル能力検定試験(ハングル能力検定協会)

留学提携校:韓国極東大学校、韓国誠心女子大学校、韓国外国語大学校
(文学部には検定試験結果に基づく単位認定制度や協定校留学制度があります)

越谷キャンパスで学べる外国語科目

日本語（留学生・帰国生対象）

授業を理解するために、
レポートや卒業論文を書くために、
日本語の基礎力・応用力を伸ばそう！

日本語の授業の魅力

「日本語Ⅰ～Ⅴ」は、留学生と帰国生を対象とした授業です。少人数のクラスなので、常に学生のレベルをチェックし、学生に合った細かな指導をしています。

学びのステップ

「日本語Ⅰ」から「日本語Ⅴ」まで開講されています。「日本語Ⅰ」～「日本語Ⅳ」は選択必修科目です。大学の授業を受けるために必要なレベルの日本語の4技能を学びます。

「日本語Ⅴ」は選択科目です。大学での学業に使える高度な日本語を学ぶことができます。専門科目の学習や卒業論文作成に役立つので受講することをお勧めします。

上達したい人へのアドバイス

充実した大学生活を送るためには、これまでに勉強してきた日本語力では足りないと思った方がいいです。日本語の授業に出席することはもちろん、本を読んだり、テレビを見たり、またたくさんの日本人と毎日話したりして、インプットとアウトプットの両方を増やしましょう。せっかく日本に来たのですから、日本語をたくさん使うようにしましょう。

授業の様子

▲日本語Ⅱ

▲日本語Ⅰ

資格・試験

日本語能力試験 ┆ 日本語を母語としない人が受ける試験です。年に2回あります。

ビジネス日本語能力テスト ┆ ビジネスで求められるコミュニケーション能力を測るテストです。

多言語交流室の紹介　コミュニケーションを楽しみながら、多文化理解のスキルを身につけよう

「ことばと文化」の学びの場

4号館1階の一角に「多言語交流室」があるのをご存知ですか？ ここは「ことばと文化」の宝庫です。「ことば」の学習には、様々なコミュニケーションの場が必要です。授業で学んでいるだけでは決して十分ではありません。教室で学んだことを実際の生活の場で繰り返し練習することが必要です。「多言語交流室」は、このようなコミュニケーション活動をもっとしたいと考えている方々のために設置されました。

何ができる？

この部屋には、英語やドイツ語、フランス語、中国語、コリア語などの語学教材や書籍、ビデオ、DVD、新聞、雑誌などがあります。またパソコンで外国のニュースを視聴したり、必要な情報を得ることができます。授業の合間や昼休みの時間を使って活用して下さい。さらに、留学生や教員など、外国語のネイティブスピーカーと交流したり、定期的に会話のレッスンを受けることもできます。その他、文化イベント、自主ゼミ、映画やドラマの鑑賞会など、必要に応じて様々な利用方法があります。

コミュニケーション力を高める

これからはますますグローバル化が進みます。そんな時代の潮流の中で、外国のことばをしっかり身につけ、外国の文化を知ることは、地球市民として活躍するための必須条件になるでしょう。コミュニケーション能力を高めたい人、外国語を使って会話を楽しみたい人なら、所属する学部に関係なく、誰でも利用できます。授業以外の時間を有効に使って、ワンランク上のコミュニケーション能力を目指しましょう。それがきっと大学生活を有意義なものにするはずです。

多言語交流室 利用者の声

「ネイティブの方と外国語を話す機会が少なかったので、ネイティブの先生が在室しているときは、英語や韓国語の会話をしに来るようにしています。」（英文3年）

「さまざまなトピックや疑問について、外国語で気軽に話したり、質問したりできるので、とても楽しいです。」（人科4年）

「同じ志の学生が集まるので、教室では中国語を使って会話をして切磋琢磨しています」（中文3年）

「NetAcademy」でe-learning

英語e-learning教材「NetAcademy NEXT」「NetAcademy2」を利用した英語学習

越谷キャンパスの学生は、キャンパス内のCALL教室やPC教室、あるいは自宅からネットワークにアクセスすることで、アルク社の英語e-learning教材NetAcademyを自由に自分の英語学習に役立てることができます。

そもそもe-learningとは、何でしょうか。e-learningとは、「パソコンやネットワークを利用した学習のしかた」のことです。ネットワークを経由して利用することで、学習者が場所や時間を選ばずに学ぶことができます。さらに、NetAcademyでは、学習の進み具合や学習結果がデータベースに自動的に記録されるので、自分のレベルやペースを確認しながら学習計画を立て、調整しながら学習を進めることがしやすくなります。

越谷キャンパスでは、NetAcademyを英語の授業の副教材として、あるいは、自主学習用の教材として提供しています。また、TOEICなど資格試験対策として活用することをおすすめします。

「授業で英語を学ぶ以外に、空いている時間に自分のペースで、英語力を伸ばしたい」「音声教材を利用したいけれど、自分にあった素材を選ぶのが難しい」「毎日少しずつでも英語に接して語彙力やリスニング力を伸ばしたい」と考えている人は、ぜひ、一度試してみてください。「自分の弱点を少しずつ克服して、英語表現を身につけたら、それを大学の英語の授業で実際に使ってみる」という、英語上達のよいサイクルを作り出すのにきっと役に立つと思います。

文教大学 文学部 外国語教育委員会 発行